公益財団法人日本文学振興会

令和７年度事業報告書

1. 令和７年４月２２日（火）午後４時より、東京會舘「アゼリア」にて、第３２回松本清張賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

住田祐「白鷺立つ」

その贈呈式および披露は6月２５日（水）午後５時より東京會舘「Ｓａｋｕｒａ」にて開催(大宅壮一ノンフィクション賞と合同)、受賞者に正賞時計、副賞５００万円を贈呈した。

2. 令和７年５月１４日（水）午後４時より、東京會舘「アゼリア」にて第５６回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

西﨑伸彦『バブル兄弟　“五輪を喰った兄”高橋治之と“長銀を潰した弟”高橋治則』

（文藝春秋刊）

その贈呈式および披露は6月２５日（水）午後５時より東京會舘「Ｓａｋｕｒａ」にて開催(松本清張賞と合同)、受賞者に正賞１００万円、副賞の日本航空株式会社提供による国際線ビジネスクラス往復航空券を贈呈した。

3. 令和７年７月１６日（水）午後４時より、築地「新喜楽」にて第１７３回芥川龍之介賞および 直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞　　該当作なし

直木賞　　該当作なし

両賞ともに「該当作なし」と決定したため、贈呈式および披露は行わなかった。

4. 令和７年１０月７日（火）午後５時より、六本木「中国飯店」にて第７３回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の５名の授賞を決定した。

宮本 輝

『泥の河』三部作、『流転の海』全九部、『優駿』など人間存在への深い観察と信頼に立脚した小説で、半世紀近く多くの読者を魅了。本年、初の歴史小説『潮音』全四巻を発表。そのますます盛んな文業に対して

映画「国宝」製作チーム

歌舞伎という伝統芸能の華麗な世界と、その裏にある複雑な人間ドラマをスタッフの努力と俳優陣の演技によって見事に描き出し、実写の日本映画として 22 年ぶりに興行収入 100 億円を突破した

河北新報・横山勲記者

福島県国見町の「高規格救急車リース事業」の問題を手がかりとして、企業版ふるさと納税制度が一部のコンサルタントにより「過疎ビジネス」に利用されている実態を明らかにし、地方の人材難と厳しい現実に迫った

藤原　正彦

数学者であるがゆえの知性とユーモアが一体となった随筆スタイルで、作家としても活躍。とくに国語教育に警鐘を鳴らし続け、『国家の品格』などの著作で、日本の文化的教養の涵養に寄与し続けている

小泉 和子と昭和のくらし博物館

未開拓だった日本家具史研究と生活史研究に長年携わるとともに、昭和 26 年築の自宅を保存・公開。昭和百年の今日まで庶民文化の記憶を伝え、日本人の生活文化を継承する活動を続けている

その贈呈式および披露は１２月５日（金）午後５時より、東京會舘「ロイヤル」「Ｓａｋｕｒａ」にて開催、受賞者に正賞時計と副賞１００万円を贈呈した。

5.　令和８年１月１４日（水）午後４時より、築地「新喜楽」にて第１７４回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞　　鳥山まこと「時の家」（「群像」８月号）

畠山丑雄　「叫び」（「新潮」１２月号）

直木賞　　嶋津輝　　『カフェーの帰り道』（東京創元社刊）

その贈呈式および披露は令和８年２月２０日（金）午後５時より東京會舘「ローズ」にて開

催、受賞者に正賞時計、副賞１００万円を贈呈した。

以　上